

牧師所感：

日本の詩人 唐澤 るみ子 女史

冒頭の詩人唐澤女史より、一通の手紙を戴いた。平素 筆者が尊敬する日本の詩人（特に 北関東在住）は、余命いくばくもない（91 歳を生かされる）筆者を労る 恵文を贈って下さって、心に大いなる慰めと勇気、感謝が心を満たした。

さて筆者が女史を知ようになった切っ掛けは、以下の通りである。筆者の拙著『牧師所感』③（2016～2018）360 頁を転載することにした。

見知らぬ人と何かの縁で出会うこととなったときの喜びは、言葉に表現し難いほど、腹の底まで染み入る。先日、五味渕 玲子（宇都宮在住のカトリック教会の信徒で、音楽家〔声楽〕であり、お医者様のご婦人）様のご紹介で 唐澤 るみ子 女史のエッセイを読んだ。ところで唐澤女史とは一度の面識もなく、今まで誰からも女史を紹介していただいたことはなかった。ところが上記の五味渕ご夫人により知るに到ったのである。

下の恵文の通り、女史と文通を始めて今日に到る。ここに最近贈って下さった恵文を掲載して、日本人の温かい心差しを、韓国人である一介の牧師の感謝のしるしとして掲載する。

申 鉉錫 先生

先生は朝鮮にお生まれなれた
その生涯がすべてお力、お祈りを
日本人の為にお使いなさい
その心は日本大地となり生いづる
みどり草となり風を倒れてどうなり
雨を流しなり 私たち日本人は
み見守りし入すた
何よりその心を中々もみでかきまわす

唐澤 るみ子

2024. 10. 16.